

1 日 時 令和4年2月18日(金) 10時から12時

2 会 場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者

- (1) 学校評議員5人 学校評議員A、学校評議員B、学校評議員C、学校評議員D  
学校評議員E
- (2) PTA代表2人 保護者A、保護者B
- (3) 学校関係者8人 校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事、教務課長

4 内容

(1) 開会挨拶(校長)

オミクロン株の蔓延により、続けていきたかったことができなくなった現状がある。

先日、校内で急な停電があった。いざというときに、どのように動くのかを考えるよい機会となった。今回のことを糧にして行動力、判断力を付けていきたい。

駅からの通学路の交通量増加に伴い、本校の現状を警察にも知ってもらった。信号機を付ける、見通しがよくなるようになど、生徒が安全に登校できるようにしてもらいたいと願う。

様々なことについて地域の方々に支えていただいている。

(2) 令和3年度 学校経営報告書(自己評価)について

教務課長、教頭、高等部主事より説明

○12月150人の教職員を対象に実施した学校経営計画 年度末評価報告について説明(教務課長)

- ・安全な医療的ケアの実施について:携わっていない教員にとっては実感がなかったが、学びたいという教員もいるため、研修の機会を作っていく。学部の医ケア児童について知ってもらう。
- ・ICTの活用について:会議もzoomで行えるように整ってきている。教員の知識も向上している。
- ・深い学びへと導く授業づくりについて:コロナのことがあったが、10月頃から通常に授業が行えるようになり、教育活動も盛んになった。ツールの活用により充実した話し合いができるようになった。
- ・国語・算数(数学)の継続した指導について:7月にラーニングマップの学習会を行った。根拠をもった指導を行おうとする教員が増えた。
- ・自立活動への理解について:学習会やお便りの発行によって理解を深めている。
- ・OJTについて:本校では若手の教員が多くなっている。特別支援教育の基本を学ぶための研修、相談しやすい体制づくりを行った。
- ・子ども達のICTの活用について:子どもの学習にもICTを取り入れている。活用する場面が増えていく。
- ・読書活動について:コロナでお話会の機会が減っている。クラスや小集団での読み聞かせを行っている。袋井市図書館との連携も来年度行っていく予定。
- ・学びを広げる関係をつくる:直接できない交流や会議はオンラインを活用。保護者面談は時期をずら

した。

- ・学校のホームページについて：子どもの作品の紹介や福祉事業所の紹介などをして、保護者に活用してもらおう場とした。

○危機管理、業務改善、袋井市との連携の3点、不祥事根絶について説明（教頭）

- ・危機・安全への対応：様々な訓練の後に検証をし、より実践に近いものにしていく。
- ・教育公務員としての高い倫理観：毎週月曜日全体打ち合わせ時、校長からの話を大切にしている。県からおりてくる情報もその都度伝えている。コンプライアンス研修は学期に1回学部ごとに管理職が行っている。
- ・働き方改革：具体策を考え各学部で実践している。マイワークデーや会議時間、定時退庁日を設定している。普段は20時に退庁。職員の中で定着している。
- ・自他を尊重する、認め合う人権感覚の育成：「ありがとうを伝えよう週間」を設定し、思いやりの気持ちを高めている。職員の意識を高めるために、人権チェックの実施や研修を行い、定期的な取り組みをしている。
- ・本校と袋井市の双方からの支援の充実：特別支援教育を理解してもらうため、システムづくりができた。継続して地域で子どもを育てていく。

○12月高等部生徒101人に実施した学校生活アンケートについての説明（高等部主事）

- ・気になった解答には面談をして対応している。相手の気持ちを理解することが難しかったり、接し方がわからなかったり、人間関係で問題がある児童が多い。
- ・生徒全員が困ったり悩んだりしたときに相談できるように、教員が相談しやすい雰囲気をつくったり、生徒の様子に気を配ったりしていく。
- ・卒業後、適切な人間関係を築き、自分から必要な時に相談できるようにしていきたい。

○2月7日現在の令和3年度高等部3年生 進路状況の説明（高等部主事）

- ・3月14、16日移行支援会議を予定している。就労先の方などと卒業後の生活について話をしていく。
- ・コロナの関係で実習を行えないケースもあったため、アフターフォローをしっかりとっていく。

（3） 自己評価への提言（各評議員・PTA代表）

評議員A コロナ対策が組織としてできていることはすばらしい。

コンプライスについても定期的に研修など実施していて不祥事を出さない、という先生方の思いを感じた。子どもたちの一番近くにいる先生方が見本になるので、継続して取り組んでほしい。

評議員B 「きぼうかんまつり」に児童生徒の作品を展示してもらった。感謝する。

昨日高南小の評議委員会に参加した。自他を尊重するという点でこちらと同じような取り組みがあった。また、医療的ケア児への対応に悩んでいたのが、連携して一緒にやれるとよいと思う。

校長 袋井市の運営協議会には参加している。その中でよりよい対応ができるように話しをして

いる。袋井市小学校から依頼があれば、対応していく。

評議員C 袋井市小学校の医ケアについては市の方で看護師を手配している。  
働き方改革について 結果はアンケートの答え方によって変わってくる。アンケートからは見えてこないこともあるのでは。教員の人手不足がいわれている中で、教職員が安心して働けているか心配。

校長 アンケートに頼らない見取りは大事だと感じる。職員の日々の様子を確認し、安心して働ける労働環境に気を付けている。教室不足、コロナ禍、人手不足などの課題もあるが、快適な環境を整えていきたい。

評議員C ICTの活用について 職員の仕事の削減につながっているのはよい。子どもへの活用もだいぶ広がっているが、ICTを使うことが目的にならないように。あくまでツールである。幼稚園でも使っているが、バーチャルとリアルを大事にしている。現実につなげる導入として使用している。ICTに走りすぎないか心配。

校長 ICTに慣れるという段階から始めているところである。

評議員C 袋井市との連携 まだまだ特別支援のことを理解できているか心配がある。今後の連携の中で特支での個別の指導計画の活用の仕方も教えて欲しい。

校長 今年度システム作りができた。今後より深く助言ができればと考える。

評議員D 救急訓練の実施の大切さ。理解していると実際にできることとは違う。いざというときに行動できるように訓練は大事。継続してほしい。

ICTコミュニケーションツールを使っでの情報共有、意思の疎通、子どもの学びの状況の共有などは今後も必要になってくる。

評議員E 学校、家庭でコロナ感染防止に努めたことには敬意を示す。大きなクラスターを出すことなくできたのは、よくやってくれたと思う。

停電の件に関しては、施設を改善してもらおうよう県に提言してもよいのでは。危機管理に関して、いざとなったら動けなくなるので、見て分かるようなものがあるとよい、掲示物ファイルなど。

先生方の評価が低かった項目は、逆に考えると先生方が努力していることでもある。

デジタル化は便利だが、先生方の中でも得手、不得手がある。苦手な人もできるように、負担にならないように。

働き方改革 業務時間だけでなく先生方のメンタルのこともある。子どものためだけでなく、先生方のことも考えて、休憩室など整えられるといいのでは。

校長 職員安全衛生委員会でも話題にしている。休憩場所を整えていきたい。

評議員E 教員のトイレは？先生方が働きやすい環境は整っているか。

校長 コロナもあり、すべて洋式になっている。

評議員E 前回も言ったが、県立市立境を無くして学校で連携して取り組んでほしい。

読書活動は今後も進めて欲しい。デジタルもよいが、実際に触ることが大事。

保護者A この学校の子どもたちは、環境の変化に敏感だったり、うまく気持ちを伝えることができなかつたりするので、いじめなどが心配。相談できる人がいる生徒が増えるようにしてほしい。

- 高主事 学部全体で取り組んでいる。道徳教育も時間を設けて行っている。教員が声を掛けたり、目を配ったりし、必要に応じて面談をしている。
- 保護者B 先生方の研修が多く、びっくりした。「ありがとうを伝えよう週間」は続けて欲しい。参観会、懇談会などにも ICT を活用できるのでは。また、学校で使っている学習アプリを紹介してもらえるとよい。
- 息子が6年生で性教育の必要を感じている。学校でも取り組んで欲しい。
- 小主事 様々な実態の子どもがいるので合わせて「ありがとうを伝えよう週間」を実施している。コロナで参観会や懇談会などが予定通りにできていないので、ICT の活用も考えていきたい。
- 今年度、各学年で発達年齢に合った保健の指導を時間を設定して行った。今後、系統的に性の指導も行っていく。

#### (4) 令和4年度 学校経営計画について

##### 令和4年度 学校経営計画（案）の説明（校長）

- ・ 教員へのアンケートや県の方向性を参考に計画を考えた。
- ・ 目標具現化の柱 関係から連携へ変えた。
- ・ 成果目標については、教員がどんなことができたかを評価できる目標としている。
- ・ 私たち教員が教えたい事よりも子どもたち自身がどう考えているか、子どもの思考を考え大事にしていきたい。
- ・ 性の指導、進路学習など、小中高の12年間を見通し、積み上げていく。
- ・ 学校運営協議会や情報の発信という点では、仕組み作りができたのでそれを発展させる。
- ・ 保護者の方が必要にしている情報を面談などで提供できるようにしていく。
- ・ 今年できたことをよりできるようにという内容になっている。

#### (5) 令和4年度 学校経営計画への提言（各評議員・PTA 代表）

- 評議員E ヒヤリハットについて ヒヤリハットが出てくれば出てくるほどいいこと。発生0件より吸いあげる方が大切。
- 校長 件数的には増えている。事案は速やかに上がってきている。なぜ起きたのかの検証と改善取り組みをしていく。
- 評議員C 袋井市との連携 在籍児童生徒は磐田市が多いが、袋井市との連携の今後はどうなるのか。
- 校長 袋井市からの要請ではじまった。磐田市や掛川市と連携しないわけではない。今後考えていく。研修によっては磐田市からも要望があった。袋井市が他の市町とつながっていくとよいと思っている。

#### (6) 袋特型コミュニティースクールについて

##### ○袋特型コミュニティースクールの基本方針（案）の説明（副校長）

- ・ 来年度の目標は、学校を知ってもらうこと。

- ・地域を大切にしながら社会とつながる。

○意見

保護者B ゴミ拾いや海岸清掃、草取り、花を植えるなどできるのでは。

評議員A コミュニティースクールが求められている理由は？昔はみんなで力を合わせて学校を作ってきた。今は地域の人に関わらなくても運営できるようになってきた。良い反面寂しい面もある。学校として何を求めているのか、地域として何をして欲しいのかなどのやりとりを気楽にできるとよいのでは。学校周辺の環境美化に協力してもらうのもよい方法。お互いが何を求めている何ができるかを分かっているのが大事。

(7) 閉会挨拶（校長）

学校は変化が苦手かもしれないが、コロナでいやおうなしに変わる必要があった。変化することをおそれない。大切なことは継承していく。

地域とは気楽にやり取りができる関係性を築いていきたい。